



アーツカウンシルみやざき活

動報告書 —5つの事業概要—

〒880-0804

宮崎市宮田町 3-46

県庁9号館3階

TEL 0985-38-1150

FAX 0985-31-2782

yama@miyazakigeibun.jp

はじめに “アーツカウンシルみやざき”とは

文化のよろず相談所

目的

2020年に開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭を契機として、文化活動の活性化に向けた体制を強化するため、県からの委託を受け、公益財団法人宮崎県芸術文化協会に「アーツカウンシルみやざき」を設置しました。文化芸術の専門家によるさまざまな支援を通して本県文化力の向上と魅力ある地域づくりを目指します。

- アーツカウンシル＝文化芸術支援の専門人材による支援機関
日本語では、「芸術文化評議会」と訳されます。発祥はイギリスとされ、欧米諸国やシンガポール、韓国など世界各国で設置されています。政府、行政組織と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関で、行政に対する政策提言や助成事業の評価等を行います。
日本でも、数年前から文化庁によるアーツカウンシル設置のための補助事業が始まっており、各地域の実情に即した文化振興機関としての役割が期待されています。

事業内容

文化芸術の専門家であるプログラムディレクター及びプログラムオフィサーをそれぞれ1名配置し、次の業務を行います。

- ① 文化芸術活動の支援
- ② 文化団体相互及び他分野との交流・連携の促進
- ③ 各種研修事業の実施
- ④ 助成事業の実施
- ⑤ その他

事業効果

文化活動を支える環境を整備することにより、県民の文化活動の活発化や担い手の育成につながり、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の成功及び大会終了後の持続的な文化力の向上を図ります。

プログラムディレクター（1名：非常勤）

H30 年度みやざき文化力充実アドバイザーとして、人材育成事業「アートマネジメント講座」の実施や、関係団体に対して国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭に係る先進地事例の紹介や助言等を行った **杉浦幹男**氏をプログラムディレクター（PD）として迎えました。

〈プロフィール〉

現在、アーツカウンシル新潟（公益財団法人新潟市芸術文化振興財団）プログラムディレクター。1970 年、東京都池袋生まれ。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科修了。（都市経済学修士）

フリーのアートプロデューサーとして活動の後、株式会社三和総合研究所入社。2006 年退社。一方で、自治体支援のもと文化コンテンツ関連企業の資金調達の仕組みづくりに従事するほか、公立研究施設での文化産業論の研究やアートの運営、アニメ・映像メディア等のイベント開催も担当。全国のコンテンツ産業の支援組織である NPO で、コンテンツ関連イベントや調査、若手人材の発掘、育成等の事業に従事。

（公財）沖縄県産業振興公社の産業振興部ハズオンマネージャーを経て、2012 年（公財）沖縄県文化振興会文化芸術推進課プログラムディレクター（沖縄版アーツカウンシル事業担当）に就任。3 年 8 か月の間に、延べ 116 の文化芸術団体・事業の事務局機能の整備、若手人材の育成を支援。

文化芸術政策の他、都市、地域産業等、地方自治政策全般を専門としている。実践女子大学非常勤講師。おかもやま文化芸術アソシエイツ（公益社団法人岡山県文化連盟）アドバイザー。

著書

「創造都市の連携と創造産業」

（共著。NTT 出版『価値を創る都市へ～文化戦略と創造都市』）

「沖縄文化を政界へ～2020 年東京五輪を契機とした地域文化発信の可能性」

（共著。勉誠出版『TOKYO1/4 と考える オリンピック文化プログラム～2016 から未来へ』）



プログラムオフィサー（1名：常勤）

アートプロジェクトの企画・運営やシンポジウムの運営統括などの経験をもつ、**山森達也**氏をプログラムオフィサー（PO）として迎えました。日ごろから芸術文化団体の相談に対応するほか、関係団体とのネットワーク構築や人材育成などを行います。

〈プロフィール〉

1980 年、神奈川県相模原市生まれ。静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科修士課程修了（アートマネジメント専攻）。

民間企業での営業業務や映像制作を行う。2009 年に浜松創造都市協議会の事務局長に就任。シンポジウム等の運営統括する一方で、日本文化政策学科事務局長を兼任。

2011 年認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ入社。行政と産業、そして市民活動をつなぐアートプロジェクトの企画・プロデュースを行う一方、浜松クリエイティブ産業機構を立ち上げ、創造都市を目指すプロジェクトを実施。

主な業務実績

「double box test ～浜松市まちなかプロジェクトマップ事業」「Creative Milieu ～創造的環境創出に向けた地下空間活用実験事業」「スタ☆タン!!」「タイムトラベル 100 時間ツアー」「表現未満、文化祭」の企画立案やプロデュース等



1 文化芸術活動の支援

文化芸術活動に対するアドバイス、ブラッシュアップ、マッチング等

相談対応

活動相談：団体活動の方針や自主事業のブラッシュアップ等についての相談 **相談 55 件**

応募相談：助成事業への応募や認証事業への申請についての相談 **相談 34 件**

(例) 宮崎古楽の会—活動相談

相談：趣味で古楽の発表会をやってきたが広がり限界を感じている。なにか手立てはないか

対応：体験 WS やトークを演奏会後にする等のアイデアを提供。併せて助成事業を紹介

結果：助成事業に応募。採択に至らなかったが次回応募や今後の活動に意欲がでたとの謝意あり

(例) 日本棋院宮崎県連合支部—活動相談

相談：国文祭で実施できなくなったブラインド囲碁を普及したい

対応：普及のための事業コンセプトと普及プロセスを提案。併せてプレスリリースを主導

結果：自主財源で実施。マスコミ3社から取材あり。その後、盲学校・保育園から要望受け実施中

(例) 公益財団法人服部植物研究所

相談：コケ文化を広めたい。いいアイデアを教えてください

対応：訪問しこれまでの取組や活動構想を聴取。観察体験 WS を提案。助成事業を紹介

結果：助成事業に応募。採択となり観察体験 WS を初めて宮崎市内で実施。定員超えとなった

(例) 社会福祉法人ゆくり

相談：障害者アートについて意見交換したい。現場やアートの見方についての理解を広げたい

対応：訪問し意見交換。コンセプトを明確にし事業に組み込むアーティストを紹介

結果：助成事業に応募。採択となり紹介したアーティストとともに“見方”を投げかける事業を実施

補助金相談会

補助金相談会①：10/8、10/9、10/18 に実施（県民芸術祭募集時期） **相談 5 件**

補助金相談会②：2/25～2/28 に実施（県芸文協助成事業募集時期） **相談 1 件**

助成事業の趣旨を理解していない応募が多いのに比べ、助成事業に関する事前相談が少ないことや採択後になって手続きや事務処理について相談があることを踏まえ、募集時期に補助金相談会を試験的に実施しました。

相談カルテの作成

相談内容が多岐にわたったものや、複雑なものについては団体ごとに“相談カルテ”を作成しました。

日本棋院宮崎支部 杉山聡子様

相談日時・内容

2019年6月4日 電話問い合わせあり
2019年6月5日 13時～午後2時 電話にて

・目の見えにくい方の相談をしたい 日向市でやろうとしたが県土一人に10万人が視覚障害者 (120万人程あり)
・視覚障害者のため保育園とかやっている
・お金の援助をしてくれるわけがない(でもこのままでは文化が壊れてしまう)
・文盲ですべての年 余計な税金も課税もあるよ 余計な税金の 控除課税は全体的に強い、特に女性強い
・全国大会は出場できたが、選手の保護にのりすぎ
・宮崎で全国大会をやったのは2010年くらい、詳細とも聞かされた
・視覚で資金がつかない、少ないのは本当ではない
・昭和40年か個人会館の構想で 黒木博士
・この文化を残すために、規制はかかるけど少なくとも壊れない 地方文化!
・視覚の障害者は石の未来に主眼する等、50以上の手を理解すれば補聴機(耳鳴り)でも使われずいけるまでにはなれる
・勝手に視覚を教える方を説いて、実際に使ってもらえればそれとんど広げていける この部分に成功してほしい

担当よりアドバイス
・山崎より、外国人字難や、子育て中のお母さん、障害者といった人の意見とかが、文化による多様な見解とつながる
・小玉より、問題をゴールに設定してしまえば上はつながる可能性がある、プレイや活動をやりたいというのであれば、そこに必要な事業の組み立てが必要

2019年8月上旬 事務所にきて
・事業コンペに参考として(提案、代表と事務係も協力して助成事業に事業計画書をつくってほしい英文で文書などを修正して助成事業に応募することになった。

2019年9月中旬 電話あり
・詳細書や計画書が完成している、事務局の協力もできずがなんとか実現に繋がったので対応は断念することになった。次回は提案のこと。

2019年9月下旬 事務局に電話

〒080-0816 宮崎県
宮崎市江戸東2-0-10
Tel 0985-28-1172
<https://ameblo.jp/nihokin/>
<https://nihokin.miyazaki.com/>

アートソウルファクトリー 野崎ケンゴ様

相談日時・内容

2019年6月4日 電話問い合わせあり
2019年6月5日 14時～2時 電話にて

・6月1日福岡支店でのイベントの進行予定
・2017年から3年ほどおこなっている 海外視覚障害者による視覚芸術展の立ち上げ、視覚に特化して立ち上げる 海外視覚障害者による視覚芸術展の立ち上げ、視覚に特化して立ち上げる 海外視覚障害者による視覚芸術展の立ち上げ、視覚に特化して立ち上げる

相談内容
・視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある
・視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある
・視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある
・視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある

担当よりアドバイス
・山崎より、視覚障害者の視覚芸術やアートに関する視覚芸術の視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある、視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある、視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある、視覚に特化したアートプロジェクトの開催がある

〒080-0805 宮崎県宮崎市橋通南
4-5-30-2F
Tel 0985-71-1315
Fax 0985-71-1315
info@artsooul-factory.com
<http://www.artsooul-factory.com/>

宮崎県俳句協会 服部修一様、日高まりも様

相談日時・内容

2019年7月30日 電話あり
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県

2019年7月26日 小玉と事務局より
2019年7月27日 事務局より小玉と事務局より
2019年7月28日 第 1 期 第 2 期 第 3 期 第 4 期
2019年7月30日 第 1 期 第 2 期 第 3 期 第 4 期
2019年7月31日 事務局より小玉と事務局より

2020年2月2日 日高まりも様
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県

〒080-0052 宮崎市丸山2-307
山上様方
Tel 0985-28-4797
<https://nihokin.miyazaki.com/>

劇団いかなものか 段正一郎、西本みさき 様

相談日時・内容

2020年2月2日 電話あり
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県

2020年2月2日 西本みさき様
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県
・宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県 宮崎県

〒080-2112 宮崎県
宮崎市高岡町下巻
722-6
Tel 0985-41-4451
Fax 0985-41-4451
info@ipomese.jp

2 文化団体相互及び他分野と交流・連携の促進

団体の交流会、勉強会、コラボレート事業の募集等の実施

文化庁委託事業「天鈿女命育成講座（あめのうずめのみこと いくせいこうざ）」

アーツカウンシルみやざきが中心となって企画・立案し、芸術文化協会が文化庁に申請した事業が採択されました。非言語による対話を体験することや障害者が表現に関する仕事を体験することを通して、障害のある人をはじめとするさまざまな人々の思いや、表現に関する仕事そのものについて知り、あらためて社会包摂について考えることを促す事業を実施しました。

レクチャーシリーズ : 1/6、18、23、26・27 に実施（4テーマ） **参加人数 100 人**

ダンスステージづくり WS : 12/15、22、1/12、19 に実施（4回） **入場客 40 人**

シンポジウム : 2/23 に実施（1回） **聴講者 30 人**

令和元年度文化庁委託事業「障害者による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」『「天鈿女命育成講座」～NON VERBAL CUE FOR SOCIAL INCLUSION～—まちなかワークショップ等による障害者の創造活動支援事業』

他分野連携に向けた意見交換

他分野団体との意見交換 : 福祉、産業、まちづくり、観光等

意見交換 7 団体

(例) 県商工観光労働部オールみやざき営業課／観光課

文化イベントをもちいた観光事業や文化を背景にした修学旅行プランについて意見交換。県内各地の文化資源及び日本博などの助成事業について情報提供した。また、台湾との国際交流事業の情報発信について協力依頼を受け、会員をはじめ有力団体等に周知した。

(例) 県障害福祉課

共生社会事業や芸文祭にむけたイベントについて意見交換。共生社会事業において協力しあうことをはじめ、芸文祭担当や県障がい者芸術文化推進センターと協力体制を築く方向であることを確認した。このほか、今後の連携についてのプレスリリースなどを提案（目玉となる告知事項がないなどの理由で中止）。

(その他) 県身体障害者連合会、県障がい者芸術文化推進センター、県商工観光労働部オールみやざき営業課、都城市立図書館、延岡市民協働まちづくりセンター

3 各種研修事業の実施

文化関係機関及び文化活動団体等の人材育成を目的とした研修の実施

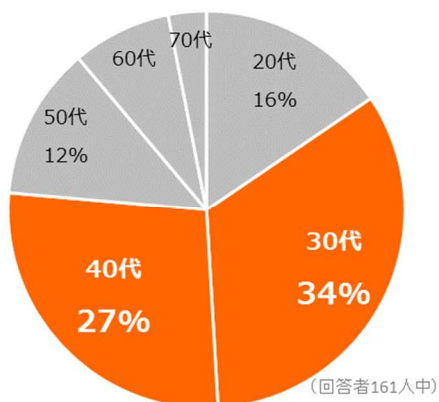
アートマネジメント講座

未来のみやざき文化と地域を支えるための知識を学ぶ「アートマネジメント講座」を開催しました。

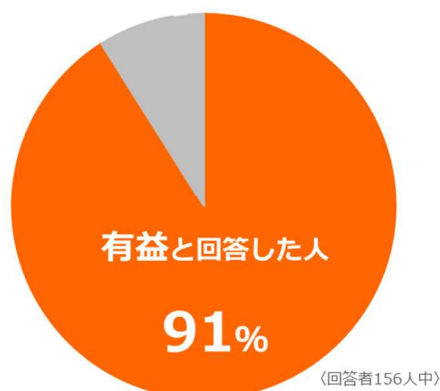
即戦力研修 : 主に広報や資金調達について学ぶ (3回) **受講者 141名**

社会包摂研修 : 誰1人取り残さない社会包摂について学ぶ (2回) **受講者 75名**

参加者の年代



有益と回答した人



1 戦略的な広報計画の作り方 (即戦力)

講師：森 隆一郎 / 「nagisato」主宰

日時：6/26 (水) 14:00~16:00

場所：ニューウェルティ宮崎2階「高千穂」

要旨/参加者コメント

- 宣伝は短期的で話題性重視。広報は長期的で信頼を作るもの。
- 組織のメッセージを伝える手段ともいえる。ミッションをつくってビジョンを掲げないと何の組織か分からない。
- 寄付の動機は頼まれたから、毎回のことだから、関心があったからの順に多い。広報に活かすとすれば知人には手渡し、近くからチラシを撒く、関心がある人に伝える、となる。
- ターゲットの絞り方などとても参考になりました。今ある広報計画にプラスしていこうと思います

2 SNSの実践的活用術（即戦力）

講師：佐伯享介 / 株式会社 CINRA 編集部

日時：7/9（火）14:00～16:00

場所：県立美術館アートホール

要旨／参加者コメント

- 10～40代の人々のインターネット利用率は95%。テレビをみている時間より多い。SNS すべてに共通するのはどんな人に届けたいのか、どんなアクションに繋がりたいのかが重要ということ。
- Twitter の投稿では文章の最初に目につく単語をおく。Facebook は共感するもの、ソーシャルグッドなものが人気。Instagram はとにかくビジュアルが主役。日英併記も有効。
- SNS はすぐに成果の得るものではない。CINRANET でも1日平均20投稿を10年前から続けた。
- SNS の基礎的な部分から実際の運用に活用できるアドバイスまで大変参考になりました

3 文化芸術団体の資金調達方法（即戦力）

講師：高田佳奈 /（公社）岡山県文化連盟

日時：7/24（水）14:00～16:00

場所：県立美術館アートホール

要旨／参加者コメント

- 芸術の価値をどう言語化して共有するか。自分たちの思いが強いこととそれに公共性があるかは別な話。
- 事業・組織・財源のバランスをとることが大事。報告書と会計に追われて事業ができないのは本末転倒。
- 文化芸術は自分たちの私益から、周辺に変化を与える共益、そして国や社会に変化を与える公益へと階層が上がっていく。
- ファンドレイジングだけでなく“自分たちの夢はなにか”など、具体的、実践的な話で分かりやすかった

4 SLOW LABEL が創造する未来（社会包摂）

講師：栗栖良依 / NPO 法人 SLOW LABEL

日時：8/5（月）14:00～16:00

場所：県立美術館アートホール

要旨／参加者コメント

- 誰でも参加できるというチラシをまいた。行きたくても1人で行けない、迷惑をかけちゃうという声があった。
- 障害があるだけで舞台上に立てない。舞台上に立つ手前で諦めさせるものがあるとしたらフェアじゃない。
- SLOW LABEL では障害のある人とのアクセシビリティを高めるノウハウがある。それを伝えていきたい。
- 主催者とアーティストという形しか頭になかったですが、コーディネーター等の必要性を感じました

5 社会包摂と「表現未満、」～社会・福祉・家族（社会包摂）

講師：久保田翠 / 認定 NPO 法人クリエイティブ・サポーターズ

日時：8/5（月）14:00～16:00

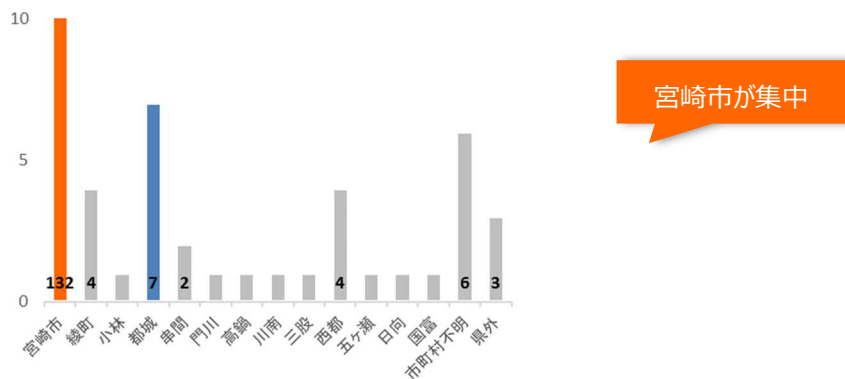
場所：県立美術館アートホール

要旨／参加者コメント

- 障害のある人達の行動はときに過剰と逸脱をする。福祉施設や特別支援学校で、障害のある人にとって快適な環境を作るだけでは社会との接点を失ってしまう。
- その人が大事にしているもの、だれもがもっている自分を表す方法を、一方的に判断しないで文化創造の軸であるとする。
- これはその人の存在をまるごと認めていくということでもある。
- 自分たちの解決したいことからアートと繋げて情報発信して社会参加につなげるのがわかりやすかった

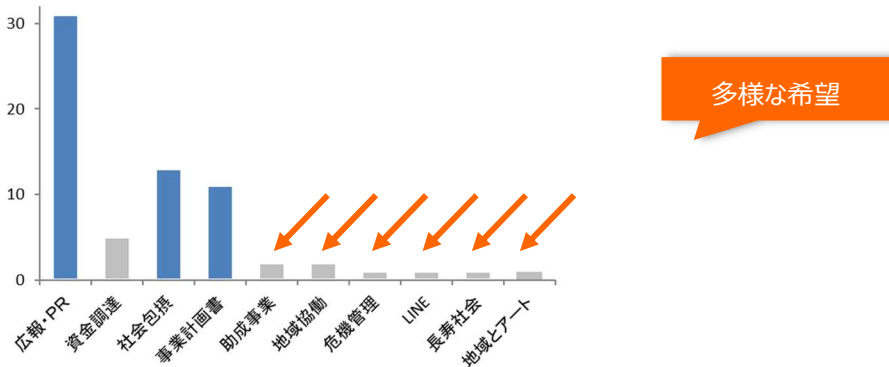
今後の研修についての考察

居住



アートマネジメント講座自体はかなり好評であった。にもかかわらず全体を通して、参加者のほとんどが宮崎市内であったことから、広報やアクセスに課題があったことがうかがえる。また、希望する講座のテーマについても多様な意見が見られた。これらのことを踏まえ、次回以降については県央地域以外での開催や、開催地に合わせたテーマ設定をするなどして、さらなる研修内容の充実を図るべきである。

希望テーマ



4 助成事業の実施

(公財)宮崎県芸術文化協会が実施している助成事業等への助言・評価

事業の周知方法に関する提案と運用

事業の周知方法が郵送とメール中心であり、周知先が限定的になってしまっていることを踏まえ、試験的にSNS“Facebook”の利用を提案し、運用を開始しました。また、県芸文協のホームページが十分に活かされていないという現状を改善するべく、アーツカウンシルみやざきの情報を盛り込むことによる相乗的な情報拡散を図りました。

全国助成事業一覧の作成

補助金相談会等で活用中

Facebookの試験的運用

最大リーチ 3,600人 フォロワー 260人

ホームページの改修

2020年3月からリニューアルオープン!

県民芸術祭の改正に関する助言

新たな活動や文化団体の掘り起こし等に有効であったチャレンジ文化活動事業が廃止となることから、主催元である(公財)宮崎県芸術文化協会からの求めに応じて、実施要綱並びに募集要項や実際に行われた審査・事業の調査結果及び有識者による協議内容等を踏まえ、改正の必要性と改正内容の大まかな方向性に関して助言を行いました。—実際の改正については芸術文化協会の理事会で協議・議決されます—

周年的事業の補助がメイン

→

新規事業枠の設置

精算払い

→

事情に応じて**概算払い**可能に

1 / 2 以内の助成

→

最大 **10 / 10** の助成

文化年鑑アーカイブ作成及び利用促進に関する提案

県芸文協が作成している県内文化活動・団体・施設を幅広く取り扱った「文化年鑑」について、資料価値が高いにも関わらず、流通が限られていることを踏まえ、県芸文協ホームページでのデータ提供を提案しました。

2020年3月以降

データ提供 実施予定

5 調査研究等

情報ポータルサイト等の開設・運営、調査研究、政策提言など

市町村及び県内関連団体との意見交換

市町村文化行政主管課をはじめ、まちづくり NPO や交流拠点等を訪問し意見交換を行いました。県内各地の現状や今後の取組の方向性の確認や全県的な事業の企画に役立てました。

要チェック

訪問市町村数

9 / 27 市町村

訪問団体数

10 団体

助成事業の視察

助成事業の視察を行い、応募内容との相違がないか、審査時の助言等が反映されているか、などを確認するとともに、実施団体から助成事業に関する意見を聴取し、助成事業の改正提案等に役立てました。

チャレンジ文化活動事業に採択となった事業を視察しました。

視察事業数

21 / 24 事業

視察プログラム数

32 / 46 プログラム

県民芸術祭事業に採択となった事業を視察しました。

視察事業数

3 / 7 事業

視察プログラム数

(同左)

(例) 都山流宮崎県支部 / 第 30 回都山流尺八演奏会

発表会とは別会場に設置された尺八体験コーナー及びスクールコンサート報告ブースについて視察。

応募内容及び審査時の質疑応答のとおり、体験コーナーが設置されており、多くの入場者が尺八に触れていた。また、発表会中にも適宜、製造者による尺八の紹介や解釈の時間が設けられており、事業の目的である尺八の普及・啓発に一定の効果が期待できるような工夫が実際に実施されていることを確認した。

文化振興条例制定に向けたワークショップ

県文化振興条例制定のための分析ワークショップ等を県担当職員と実施

1 Day : ブレインストーミング→簡易版 SWOT 分析→KJ 法

参加職員 **4** 名

2 Day : アンチプロブレム法・シネティクス法→試作版検証①

参加職員 **5** 名

3 Day : 試作版検証②→まとめ

参加職員 **6** 名

若年層の意識調査及び短歌の魅力発掘事業

県からの委託を受け、高校生及び大学生を主な対象とするアンケート調査を実施し集計・分析しました。
また、宮崎大学教授及びコモンズデザイナーによる短歌県づくりのためのWSを試験的に実施しました。

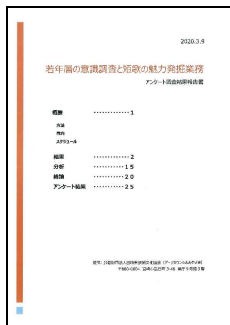
アンケート集計数

県内高校生（抽出した22校に配布）	1,217名
県内大学生（大学構内で配布）	88名

パイロット事業「宮崎で短歌のまちづくりを考えるまち歩き」

参加者（大学生、県職員、県民等）	18名
------------------	------------

（成果物）



その他事業の視察及び会議への出席

県内外で実施されるさまざまな事業や報告会、各団体が実施する総会や会議等に参加し、県内外の情報収集に努め、新たなネットワーク構築に役立てました。

（例）全国アーツカウンシルネットワークミーティング、延岡市文化連盟総会、宮崎市芸術文化連総会、宮崎県公共文化施設連絡協議会、（公財）宮崎県産業振興開発機構業務報告会 等

2020年度 アーツカウンシルみやざきの動き

令和元年度の活動を踏まえ、次の業務を実施します

(1) 文化芸術活動の支援（相談、アドバイス、ブラッシュアップ、マッチング）

令和2年度は国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が本県において開催されます。各文化団体の活動が両大会を機に活発化するよう、相談対応を行っていきます。

(2) 文化団体相互及び他分野との交流・連携の促進

アーツカウンシルが積極的に県内各地域に出向き、各地で文化振興を担うキーパーソンの存在と情報交換や意見交換を行い、ネットワークを築きます。また、全国組織であるアーツカウンシル・ネットワークと連携し、情報交換を行います。県内他分野との連携に向けた情報交換も実施します。

(3) 各種研修事業の実施

昨年に引き続き文化関係機関及び文化活動団体等の人材育成を目的とした研修を実施します。

(4) 助成事業の助言・評価

助成事業の採択・実施・評価にあたって、助言や提案を行い、文化活動の向上や発展を目指します。

(5) 情報発信

県内の様々な文化活動や文化資源の情報を効果的に収集し、県内外に発信し、さらに効果が上がるよう発信方法の改善を進めます。

(6) 民間資金の調達の検討

企業協賛金等の募集やクラウドファンディング等の手法を検討します。

(7) 新たな事業の提案（調査・研究及び政策提言）

「みやざき文化振興ビジョン」の評価・検証や県事業のモニタリング等を行い、具体的な事業案を県へ提案します。さらに、文化振興条例制定へ向け、行政職員との意見交換やワークショップを実施し、議論を深めていきます。